



## 論 説

### 68年運動の不発を総括し、70年安保斗争へ

員の選出、クラブ運営、講演などを行つた。西後、クラーク便良吉議長に対し、すみれ官房案が提出され、執行部一体、一部文化会系学生の退場で流された。因だII部学友会活動に於ける左派・右派の勢力争いは、またますます激化し、学生大衆から遠ざかった。大金前に、教行部から議論書は、「経過報告」書が、少しだけ促から「決議案」なる文書が提出されたが、いずれも議論されなかった。秋季学生大会は、議論書の如く、教務案、監生案、生活運動案(分断)と経過報告案を行なったのである。また、スローガンの決議を採択しない。秋季学生大会は、あらかじめ活動の総括の視点の設定して過去一年間の総括の場でなされたのである。

しかし今日の学園運動の質は、その面での問題ではない。法定的な政治性を問われなければならない。そこで、内閣主義的再編に対する闘争に、ブルジョア支配開拓などの非和解的な観点から批判していくのである。その内容は、大学として、個別学園闘争、経済闘争を人民的政治斗争に掲げるのである。質問がわかれている。モントモローナ具体的には、バリケード、大学封鎖などの「バティ」運動の展開、生産系工科系自らの生産管理、地区やナショナルの形成などによって、多くの樹木が倒されたり、運動への発展のたまに、今一つ斗争組織の形成について重大な誤解を抱いていたとを認めておる。

68年度新報掲載一覽

論說

- | 関西学園闘争の結合へ                    |  |
|-------------------------------|--|
| 大斗争勝利!労農学総決起会が開催され全国から約七千人が結集 | 一月十五日。山大入試験場。東京「一方日本、民衆がこれまで対抗して」した。今はまだ大斗争の勝利に向かされ金額から約七千人が結集 |
| 伊丹デモ                          | 「金額動員をかみ、入試問題、パリ」けた労農学の結合による政府ブルーカード解除を願ひて五千人が結集               |
| 空港の墓地化に広範な反対運動                | ジョルジエー文部省「山大当局」  |
| 授業料値上げ見送り                     | 六月四日(101号)   |
| 金連・労働者の連帯へ                    | 革命的闘争の原則   |
| 夜学連結成                         | 犬養哲、「イニシアチュー」  |
| 実行團三選を強行                      | 日本の新左翼と旧左翼   |
| 学生は販賣されて                      | 戦略的左翼世界的潮流   |
| 当局、貧困化政策を学生へ起終大学総体の矛盾暴露       | 国家への挑戦   |
| 心理学実驗室設置が実験問題然                | 國家への挑戦はいかにして可能か  |
| 技術的な対応                        | 「ローラー」が国家論の評議をなしていく  |
| 教育学科・社会企画問題                   | 芸術論における中井正一の主張   |
| ルボル                           | 現代青年とM・ウ・バー  |
| 配軸                            | A君に与え手紙  |
| 小中連携活動の苦悶                     | 「ヒーリング」の国家論の止揚をめぐる   |
| ボート・流派の秋季学生大会                 | チヨコと社会主義運動   |
| 茶・雑文映像、良好的の就職                 | 10・21闘争を妄想闘争へ  |
| 早い体育実技の門限                     | 10年後原が10年後原への過渡期   |
| 収容制粉砂                         | 街頭生徒運動へと躍進する新たな主体  |
| 労農戦列を強化                       | 國家が必ずやる学園闘争  |
| 「第三世界」の展開                     | 一大・山大・東大闘争   |
| ダコロ「革命的反帝闘争」を題材に              | 八月四日(101号)   |
| 暴力と非暴力・合法秩序とは何か               | 八月四日(101号)   |
| 「一ロッパ反戦運動                     | 十一月四日(104号)  |
| その現状と特徴                       | 十一月四日(104号)  |
| 原宿の残したもの                      | 小山「崇   |
| 時評・論文                         |  |
| △國家論への挑戦                      | 選のとなり、岡村赳彦著「1960年」   |
| 「國家の挑戦」を組織的政治的に遂行する武器         | 六月四日(199号)   |
| 竹本信弘                          | 八月四日(101号)   |
| △「第三世界」の展開                    | 八月四日(101号)   |
| ダコロ「革命的反帝闘争」を題材に              | 四月四日(197号)   |
| 暴力と非暴力・合法秩序とは何か               | 五月四日(198号)   |
| 「一ロッパ反戦運動                     | 五月四日(198号)   |
| その現状と特徴                       | 五月四日(198号)   |
| 書評                            |  |
| △映画「首」をみて                     | 手記一  |
| 映評                            | 手記一  |
| その他                           |  |
| 野村修                           | 和田千重   |
| 鶴鳴露雲                          | 森達哉男   |
| 金美喜                           | 小山弘樹   |
| ある一年生の羽田・佐世保                  | 藤本進治   |

## 気軽なあなたの

金融機關

# 質「むかでや」

天六市バス操車場横 TEL (351) 9527